

地域人材・資源活用推進事業

本スライドには以下の3点の内容を記載しています。

- 1 事業について
- 2 掲載した資料について
- 3 推進校の取組について

地域人材・資源活用推進事業

1 事業について

○事業の目的

これからの時代に求められる資質・能力を育むために、外部人材・地域資源を有効に活用しながらカリキュラム・マネジメントを推進し、社会や地域と連携してよりよい学校教育を目指し「地域人材・資源活用推進校（以下「推進校」という。）」を指定し、その取組について、普及・啓発する。

○指定校数

都内公立学校のうち、区市町村立学校15校及び都立特別支援学校2校

○指定期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間

地域人材・資源活用推進事業

1 事業について

○取組内容

(1) 推進校は、児童・生徒に身に付けさせる「資質・能力」を明確にし、外部人材・地域資源を活用しながら多様な教育課題に向き合う中で、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育む教育活動を実施するために以下の取組を行う。

ア 教科等横断的な視点によるカリキュラム・マネジメント

各教科等の関連付けを図った教育課程の編成や、各教科等・学年を越えた組織運営の改善等、教科等横断的な視点で組織的に取り組む。

イ 多様な教育課題への取組

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編に示された現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容を参考に各校の実態に合わせ、取り組む。

ウ 授業改善の取組

各教科等の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むとともに、学習指導要領を踏まえた体系的な指導計画を立案し、授業を行う。

(2) (1) アについて、推進校は育成すべき「資質・能力」に基づき、複数の教科等を関連付けて取り組む。

地域人材・資源活用推進事業

2 掲載した資料について

<資料の構成>

各校の資料には、主に、以下の内容が記載されています。

推進校の学校種別、学年、
教科等名、単元等名

○学校 第○学年 ○○「○○」

育成を目指す資質・能力

○○

取組の概要

【取組の内容】

①○○

②…

③…

【児童（生徒）の考え】

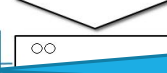
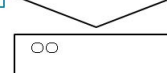
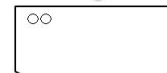
…

…

【○○】

【○○】

学習過程・学習の流れ



単元等全体の学習過程・
学習の流れを示し、【取
組の内容】で示した内容
には網掛けを表示

取組を通じて、児童・生徒に育
成を目指す資質・能力を明示

取組の内容は、推進校として次
の3点に基づいて実施した様子
を端的に記載

- (1) 教科等横断的な視点に
よるカリキュラム・マネ
ジメント
- (2) 多様な教育課題
- (3) 授業改善

地域 資源活用推進事業

○○立△△学校

児童・生徒の考えの変容や、
思考の過程

複数の教科等を関連付けて
実施した場合には、関連す
る教科等も併せて記載

地域人材・資源活用推進事業

3 推進校の取組について

推進校（以下、17校）の取組を掲載しています。

- | | |
|------------------|----------------------|
| (1) 中央区立日本橋小学校 | (11) 昭島市立光華小学校 |
| (2) 江東区立有明西学園 | (12) 町田市立町田第一小学校 |
| (3) 江東区立東砂小学校 | (13) 武蔵村山市立小中一貫校村山学園 |
| (4) 大田区立道塚小学校 | (14) 奥多摩町立奥多摩中学校 |
| (5) 杉並区立杉並第七小学校 | (15) 三宅村立三宅中学校 |
| (6) 杉並区立天沼中学校 | (16) 都立永福学園 |
| (7) 豊島区立千登世橋中学校 | (17) 都立多摩桜の丘学園 |
| (8) 豊島区立椎名町小学校 | |
| (9) 練馬区立開進第三小学校 | |
| (10) 府中市立府中第六小学校 | |

育成を目指す資質・能力

主体的に「問い」をもち、社会に見られる諸課題を解決しようとする資質・能力

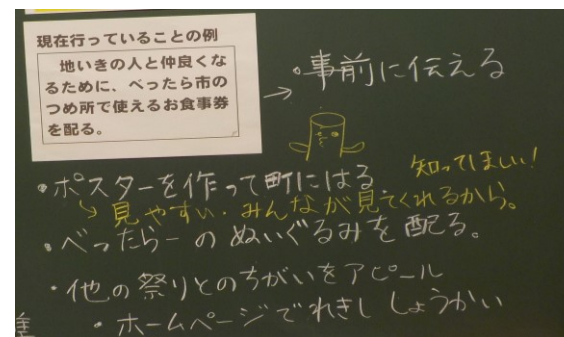
取組の概要

【取組の内容】

- ①東京都に残る文化財や伝統行事について調べる中で、地域のべったら市の歴史の長さに興味をもち、学習計画を立てる。
- ②べったら市の御神輿の準備を見学に行き、べったら市に関わる人たちのしていることや、そこに込められている気持ちを調べる。
- ③べったら市保存会会長の濱田さんから、受け継いでいくための課題と現在行っている取組について話を聞き、「べったら市を未来につなげるために自分たちにできることは何か」を考え、表現する。

【児童の考え】

- ・10万人もの人が来るべったら市を13人の保存会の人作り上げていることを知った。私たちもPR活動に参加するなどして保存会の人を手伝いをしたい。
- ・べったら市が長く引き継がれていってほしい。そのために、私たちはこの学習をきっかけに、来年もべったら市に参加し盛り上げていきたい。



【第4学年が出したアイデア】



【べったら市保存会会長 濱田さんの話】

学習過程・学習の流れ

べったら市について知り、どのような祭りなのか、関心をもつ。

疑問に思ったことから、学習問題をつくり、学習計画を立てる。

べったら市の歴史について調べ、理解する。

べったら市を受け継いできた人たちについて調べ、理解する。

べったら市を保存したり受け継いだりしている人々の思いについて考える。

べったら市の課題を知り、今後を守るために、自分たちにはどのようなことができるか考える。

学習問題に対する自分の考えをまとめる。

育成を目指す資質・能力

職業について自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できる

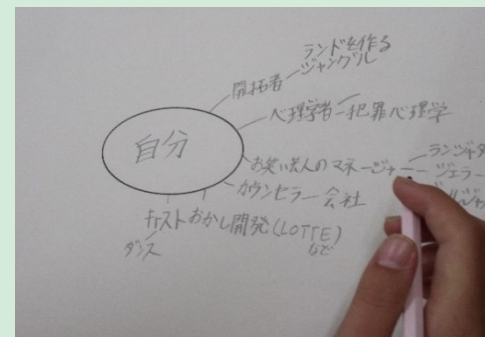
取組の概要

【取組の内容】

- 本学園の保護者や地域の大人がファシリテーターとなり、以下の活動を行う。
 - ・自分自身が興味をもったもの、好きなものの共通点について、ビンゴゲームやウェビングマップを作成する中で明らかにする。
 - ・その共通点を生かすような職業についてファシリテーターと話す中で明らかにする。

【児童の考え】

- ・将来やることがより明確に決まり、その後のことも大事だと思った。
- ・これからの進路は、自分で明確に定め、新しいことに挑戦していきたい。
- ・自分の知らない人生を経験したファシリテーターと実際に話し、将来について考えが深まった。



【自分に合った職業について考える】



【ファシリテーターが児童の思いを引き出す】

学習過程・学習の流れ

活動を通して自分の「好きなこと」にあった職業を見つける。

自分の見付けた職業について1個を選択し資料を基に詳しく調べる。

調べたものをタブレットを使ってまとめる。

まとめたものを学級全体に向けて発信・発表する。

発表した内容を振り返り、自らの進路に対して、主体的に考えながら生活していく。

育成を目指す資質・能力

様々な文化について知り、気付いた課題について主体的に調べ、発表することができる。

取組の概要

【取組の内容】

- ①海外の文化について、海外生活経験者から体験談を聞く。
- ②地域の方による日本文化体験（華道・茶道）を通して、日本の文化に対する理解を深める。
- ③学んだ内容をこれからの生活に生かそうとする姿勢を意識させながら学習発表会で発表をする。

【児童の考え】

- ・日本と世界では、学校の生活の様子に違いがあることが分かった。
- ・日本とはジェスチャーの意味が反対になったり、国によって食事のマナーが違ったりするので、世界の文化も日本と同様に大切にしたい。
- ・日本の文化を調べると、今まで気付かなかった日本文化の良いところがたくさん見つかった。学んだことをこれからの生活に生かしていきたい。



【華道体験 文化や考えを学ぶ】



【世界と日本の文化について発表】

学習過程・学習の流れ

特別の教科 道徳
「同じ学校でも」
(国際理解)

ハワイの学校生活を知り、海外と日本の文化の違いに気付く。

世界の文化と日本の文化について興味を広げ、課題を設定する。

外国語活動
「世界の挨拶や数の数え方」

文化について調べ学習の計画を立て、探究する。

調べたことを基に、体験学習を設定し探究を深める。

国語
「はんで意見をまとめよう」

学習した内容について話し合い、発表することを通じて文化や他者を大切にする態度を養う。

育成を目指す資質・能力

地域防災を自分事として捉え、地域への誇りと愛着をもち、自主的に関わる力を育てる。

取組の概要

【取組の内容】

- ①専門学校の方からダンボールシェルターについて話を聞く。
- ②課題解決に向け、ダンボールシェルターを製作し、思考錯誤する。
- ③ダンボールを活用するために必要な考えを協働して出し合い、様々な立場で比較しながら粘り強い態度で取り組む。
- ④体験を基にさらに良い避難所となる考えを選択し、伝え合う。

【児童の考え】

- ・ダンボールが軽く暖かく使いやすいことが分かって驚いた。
- ・ダンボールシェルターは、使う人によって、過ごし方や、必要なものが違うのではないかな。もっと取材がしたい。
- ・ダンボールシェルターに入ってみたことを地域の方に知らせたい。



【三角の形のダンボールをクリップ止めて製作する】



【製作後の考えをまとめて発信したポスター】

学習過程・学習の流れ

区防災危機管理課の方から
主な自然災害への備えを聞く。

安全性について調べ、ダンボール
の避難所での活用について取組を
活かす考えをもつ。

ダンボールを活用してシェルターを
製作し、共助できる体験をする。

体験を基にさらに新しい避難所の在
り方についてまとめる。

災害に備える大切さについて
発信する。

小学校 第4学年 総合的な学習の時間(杉七タイム)「みんなつながるやさしい町・阿佐ヶ谷」

育成を目指す資質・能力

問いをもち、考えを深め、次の学びにつなげる力～地域とつながり、地域とともに学ぶ「杉七タイム」～

取組の概要

【取組の内容】

- 多様性を認め、つながりや関わりを大切にするために
 - ①杉並区社会福祉協議会の協力で、様々な立場の人について体験を通して知る。また、聴覚障害のある人と交流をする。
 - ②学校支援本部の協力で、視覚障害のあるドラマー佐藤さんの演奏を鑑賞し、交流する。

⇒本単元は、教科等横断的な視点で、国語「思いやりのデザイン」、道徳「なにかお手伝いできることはありますか?」、社会「特色ある地域の様子」、音楽「拍の流れにのってリズムを感じ取ろう」等と関連性を図って取り組んだことで、児童は自ら問いをもち、その問いについて深く考え、学びを結び付けながら、学習することができた。

【児童の考え】

- ・だれでも年をとると、できていたのにできなくなることが増えてくる。わたしにどんな手伝いができるだろう。
- ・車いすは少しの段差でも進めず大変だ。町中の段差をなくしたい。
- ・聴覚障害のある人は、周りに気付かれにくいことに困っている。マークやバンダナがあることをもっとみんなに知ってほしい。
- ・障害は周りの環境によって生まれることが分かった。



【多様な立場の人についての体験
～杉並区社会福祉協議会の協力で～】



【視覚障害のあるドラマー佐藤さんと
交流～学校支援本部の協力で～】

学習過程・学習の流れ

「大発見、阿佐ヶ谷のまち」(第3学年)の学習から、私たちの町には様々な人がいることを振り返り、学習計画を立てる。

様々な人たちについて、体験を通して知る。また、聴覚障害のある人と交流する。

「みんなつながるやさしい町・阿佐ヶ谷」にするためにはどうしたらよいか、自分なりの考えをもち、友達と対話して、考えを深める。

「みんなつながるやさしい町・阿佐ヶ谷」の町づくりについて、意見を発表する。

「みんなつながるやさしい町・阿佐ヶ谷」への願いをこめ、阿佐ヶ谷七夕まつりに展示する作品(はりぼて)を完成させる。

育成を目指す資質・能力

伝統や文化に関する教育を通して、生徒の自己有用感、自己肯定感を高め、自主・自立的な活動を行えるようにする。

取組の概要

【取組の内容】

①国語「ことだま百選」

本校が編さんした「ことだま百選」にある古文や文学的名文の暗唱と朗読を行い、語感を磨き語彙を豊かにする活動を進めながら、伝統や文化に関する教育とした。暗唱の活動では保護者にも生徒の暗唱を聞いてもらっている。朗読の活動では地域の劇団員を招へいし、朗読技能向上のための講習会を行うとともに、生徒は定期的に、保護者や地域の劇団員に「ことだま百選」の中から自分が選択した文や文章を披露する活動を行っている。3月には、有志生徒による朗読発表会を行う予定である。

なお、指導の効果を高めるために、特定の事項を取り上げて繰り返し指導を行うとともに、他単元との関連を図った。

②総合的な学習の時間「伝統文化講座」・「和の日」

地域人材を活用し、第3学年で「伝統文化講座」として茶道・華道・外国人との交流の中から1講座を選択して体験する活動を行った。また、「和の日」として、地域人材を活用し、第2学年は三味線・和琴の体験と演奏発表、第3学年では落語を聞く体験を行った。

【生徒の考え】

「ことだま百選」暗唱の活動により地道な努力が実を結ぶことを感じ、自己肯定感の高まりがみられた。「ことだま百選」朗読の活動により、音声言語での自己表現を繰り返すことで、自己開示への抵抗感が低くなった。このことから、「ことだま百選」の朗読を積極的に行う気持ちも高まり、聞き手に喜んでもらえる経験を積むことで、自己有用感のさらなる高まりがみられた。また、「伝統文化講座」及び「和の日」の学習により、日本の伝統文化について学ぶとともに、自己選択した講座で学びが深まったことから、自己肯定感の高まりがみられた。

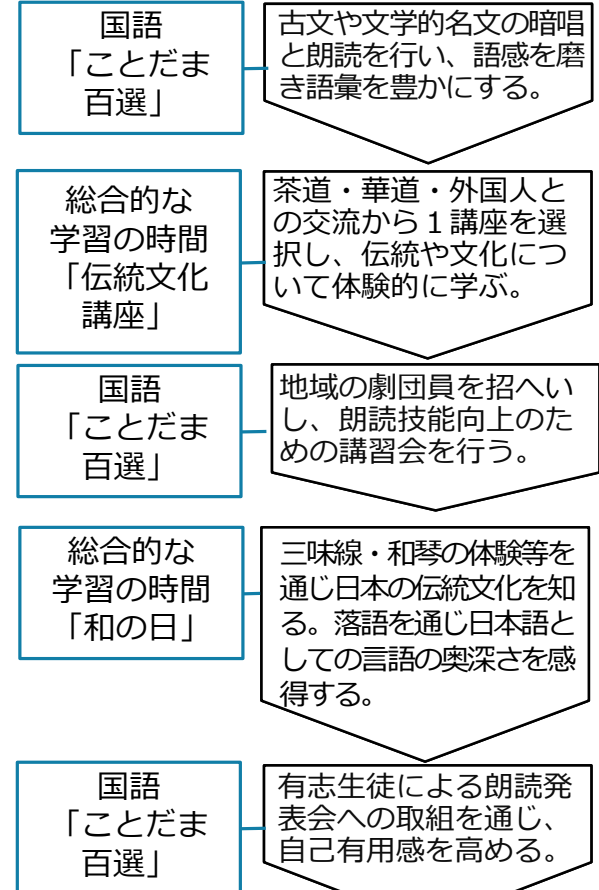


【①国語「ことだま百選」朗読講習会】



【②総合的な学習の時間「伝統文化講座」】

学習過程・学習の流れ



育成を目指す資質・能力

教科等横断的な学習を通じた、探究的な学習に主体的・協働的に取り組む態度の育成

取組の概要

【取組の内容】

○社会 地理的分野 「世界と日本の地域構成」

高尾山について調べ学習を行い、どのような地理的な事象が見られ、どのような地理的な課題が生じているかを理解する。

○理科 第2分野 「生物の世界」

講演を聞いて、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識する。

○総合的な学習の時間

他教科等で身に付けた知識と関連付けながら、調べたことを班ごとにまとめ、フォトコンテストや模造紙での紙面発表で表現する。

【生徒の考え】（校外学習のしおり～実行委員長のことば～より）

高尾山に登るときに、この校外学習は何のためにあるのか、なぜ高尾山に行くのかなどぜひ、目的をもって行きませんか？ 例えば、「班で協力して楽しみたい」、「頑張って登りたい」などです。初めての人も行ったことがある人も、みんなでマナーを守りながらこの校外学習を楽しみましょう。



【大学教授による講演】



【高尾山登山】

学習過程・学習の流れ

社会地理的分野
「世界と日本の地域構成」

東京の観光地としても有名な高尾山について知る。

理科
「生物の世界」

大学教授より、山に生える植物・生き物について講演を聴き、学ぶ。

現地での体験：与えられた課題に取り組みながら登山

総合的な学習の時間「課題を設定し研究」、「調べたことを発表」

ビジターセンターミュージアムにて、まとめの説明を聞く。

事後学習：班ごとにフォトコンテスト、模造紙にて紙面発表を行う。

育成を目指す資質・能力

地域の特色であるトキワ荘について調べ、再建・保存してきた人々の努力や苦労を知り、地域の一員として受け継いでいく気持ちを育てる。

取組の概要

【取組の内容】

- ①児童がトキワ荘マンガミュージアムの見学を通して、自分の興味・関心に基づく学習課題を設定する。
- ②児童は、トキワ荘について詳しく知っている「椎小学びのサポーター（地域人材）」からの話を聞き、学んだことを共有する。
- ③地域の方にインタビューをして分かったことを、国語科や社会科等の学習と関連付け、地域の良さを伝える新聞を作成する。

【児童の考え】

- ・地域の方々が努力や苦労を重ね、トキワ荘を再建・保存したことが分かった。
- ・インターネットや本で調べても載っていなかったことを知ることができて、うれしかった。
- ・これからも、トキワ荘を大切にしていきたいと思った。



【トキワ荘マンガミュージアム
見学の様子】

学習過程・学習の流れ

南長崎にしかない町の自慢を考え、トキワ荘に注目する。

トキワ荘ゆかりの漫画家やその作品に触れ、トキワ荘の魅力について考える。

見学や、地域の方の話を聞く活動を通して、トキワ荘について詳しく調べる。

調べたり考えたりしたことを新聞にまとめて発表し、石ノ森章太郎ふるさと記念館が学区にある登米市立石森小学校と交流する。

育成を目指す資質・能力

子供たち一人一人が生活する地域の「人、もの、こと」の実状や、地域における社会的課題を捉える。地域のためにできることを考え、地域の担い手・創り手として貢献する姿勢や愛着心を高め、計画した方法を実行する力。

取組の概要

【取組の内容】

- ①地域に働きかけることを通して学んだことを見つめ、自分が生活する地域のためにしたいことを明らかにする。
- ②意見聴取や調査活動を繰り返しながら、地域の人々の多様な思いや願いを捉え、地域に貢献する方法を考え計画を立てる。
- ③地域のニーズを取り入れながら、自分が生活する地域のためにできることやすべきことを「担い手・創り手プラン」を提案書として作成し、専門家の意見を踏まえて提案書を練り上げ、実行する。貢献する経験を通して地域への愛着を深める。

【児童の考え】

- ・地域の人々のニーズを調査することで、自分たちがすべきことが分かってきた。実現に向けて内容を考えていきたい。
- ・専門の人に相談したことで、実現可能なプランにしていけそう。



【身近な地域の人や保護者との相談】



【専門性のある方にも相談し、プランの内容を練り上げる】

学習過程・学習の流れ

地域のためにしたいことやできることを考える。

インタビューをしたり、目安箱を設置したり地域の課題を調査する。

調査の結果を基に、「担い手・創り手プラン」提案書を作成する。

プランについて、「相談→見直し→立案」を繰り返し、スパイラル的に内容を練り上げる。

地域に貢献する意義を見直し、プランを完成させ、実行する。

育成を目指す資質・能力

受け継がれる東京都の伝統文化について知り、深い郷土愛と地域に対する誇りを育む。

取組の概要

【取組の内容】

- ①事前に、くらやみ祭について調べた上で、分からなかったことや疑問に思ったことなどをくらやみ祭を受け継いできた方々へ質問をする。
- ②くらやみ祭を受け継いできた方々から、地域の発展を願う人々の様々な思いや未来を担う児童へ伝えたいことを聞く。
- ③調べたことをまとめ、「わたしたちの府中」の魅力として発信する。

【児童の考え】

- ・昔からくらやみ祭に参加している方々でも知らないことがあるほど歴史があったり、祭りにはたくさんの人と関係していたりすることが分かった。
- ・大人になっても礼儀を大切にしなければいけないことを学んだ。
- ・東京都の伝統文化に触れることを通じて、自分の住む府中市に、こんなに有名なお祭りがあることを誇りに思った。
- ・実際にくらやみ祭で使われる府中囃子などを体験して、そのよさを知りたいと思った。
- ・3年間開催されていないが、来年は参加して、もっといろいろ調べたい。



【府中市郷土の森博物館館長から、くらやみ祭の歴史を教えてくださいました。】



【くらやみ祭を受け継いできた方々からくらやみ祭への思いを聞きました。】

学習過程・学習の流れ

東京都の文化財や年中行事を調べ、学習の見通しをもち学習課題を設定する。

くらやみ祭の昔と今の写真を見比べて、長く続いてきた歴史や理由を知る。

くらやみ祭を通して、地域への思いなどについて調べる。

くらやみ祭を受け継いできた人たちの思いを直接聞き、知る。

調べたことや聞いたことを基に、学習問題に対する考えをまとめ、東京都の伝統文化のよさを伝えていく。

育成を目指す資質・能力

伝統野菜の栽培を通し、食や命のつながりを「自分事」として考える価値観を育む。

取組の概要

【取組の内容】

- ①学級園をもっと活用するために児童が役割を担い、責任を果たす。(特別活動)
- ②SDG s への取組や地域資源の活用(総合的な学習の時間)として学級園を活用し、伝統野菜の栽培に取り組む。
- ③地域人材や行事を活用し、栽培から調理実習(家庭科)まで、児童が教科等横断的に取り組めるように指導計画の工夫を行う。
- ④昭島市給食シンポジウムで発表することで、相手意識やこの取組の目的意識を明確にして、自分たちの活動の価値を再認識し、「自己効力感」を高める機会とする。

【児童の考え】

- ・自分たちの市内に、このような伝統が残っていたことに驚いた。
- ・食べること、命をいただくことに感謝して生活していきたい。
- ・食を守るために、私たちができることはなんだろう。

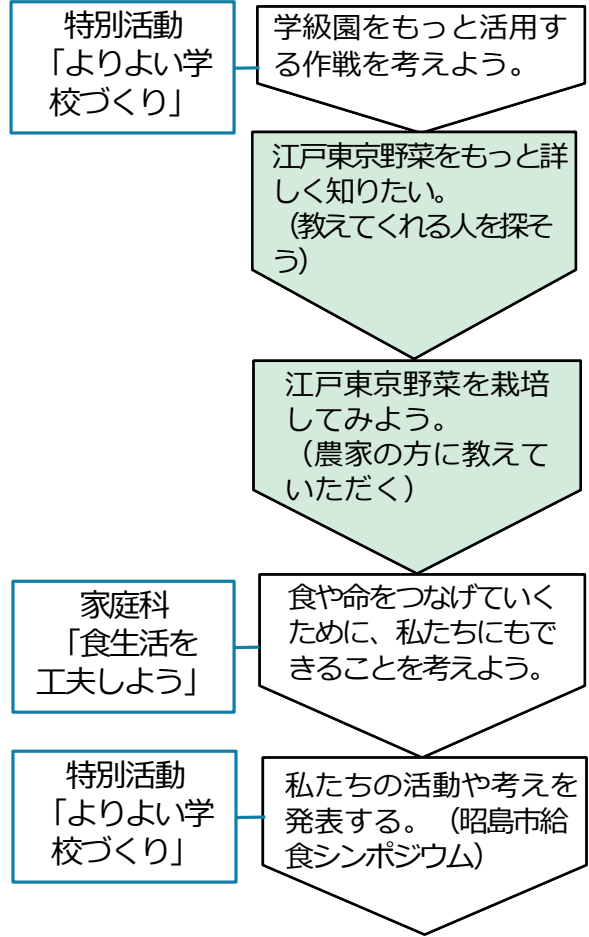


【江戸東京野菜 専門家の授業】



【農家の方に教えてもらい、種苗を植え付け】

学習過程・学習の流れ



育成を目指す資質・能力

人と人が支え合って社会が成り立っていることや、自分の可能性に気付き、地域で活躍する人々と共に、同じ社会の一員として将来、自分に何ができるかを考え、明るい展望をもって生きていこうとする態度。

取組の概要

【取組の内容】

- ①働くということについて自分なりに考えたことを基に、実際に地域社会で働いている人たちの話を聞き、比較・分類したり、複数のものを関連付けたり組み合わせたりする探究的な学習の過程を通じて、話の中の共通点や相違点について考える。
- ②実社会で働く人々の仕事を体験したり、働く様子や姿を知ったりする中で、職業について調べ、探究する。

【児童の考え】

- ・実社会で働く人々の話を聞くと、想像していた仕事内容とは違うことも多いと分かった。
- ・どの仕事も、お客さんや相手のことを考えることが大切だと気付き、やりがいにつながっていると思った。
- ・将来の自分について考えるきっかけとなった。



【調理専門学校先生を招へい】



【美容専門学校先生を招へい】

学習過程・学習の流れ

自分のよさや好きなことについて考えたり周りに聞いたりする。

世の中にある職業について調べ、社会で働くということについて自分の考えをもつ。

自分の興味・関心のある職業や領域を選び、課題を探る。

地域人材の話を聞いたり、体験をしたりして、各職業の共通点や相違点などを整理する。

一連の学習を資料にまとめ、自分に合った仕事や将来について考える契機とする。

育成を目指す資質・能力

深い学びの実現に向けた思考力・判断力・表現力

取組の概要

【取組の内容】

- 地域人材による課題解決の場面における学習支援
習得した知識及び技能を活用して、課題解決する場面において、支援が必要な児童に個別の学習支援を行った。
- 地域人材による地域学習等の学習支援
社会科及び総合的な学習の時間において、地域や市政に精通した地域人材を講師に招へいし、児童が、郷土や地域に関する理解を深め、愛着をもつようになるために学習支援を行った。

【児童の考え】

- ・考えをまとめることが難しいときに、地域の方との対話によって、考えがまとまった。
- ・地域の方が、市の昔のことや市役所の仕事のことを詳しく教えてくれて、市のことが良く分かった。



【地域人材による地域学習等の学習支援】

学習過程・学習の流れ

単元の導入段階において、学習内容の見通しをもつ。

新たな知識及び技能を知り、理解する。

学習内容の中から課題を見いだす。

課題の解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。

課題の解決策や創造したことを自分の言葉や自分なりの表現方法でまとめ、発表する。

育成を目指す資質・能力

- ①自己管理能力、②人間関係形成能力、③課題対応能力

取組の概要

【取組の内容】

1 全学年共通の取組

- ①学校生活満足度調査分析ツールの開発・活用と構成的グループエンカウンターによる人間関係の質の改善
- ②専門家による体験活動の実施を通じた人間関係形成能力の育成
- ③自己管理能力、人間関係形成能力の育成に向けたソーシャル・トレーニングの開発・活用
- ④総合的な学習の時間などの課題解決的な協働活動におけるスキルの活用の場の設定 等

2 総合的な学習の時間：「奥多摩イノベーション」の取組

地域を支える人材の育成を目指し、学校地域協働本部を活用して地域の専門家と3年間継続的に協働し、地域活性化に向け取り組む。

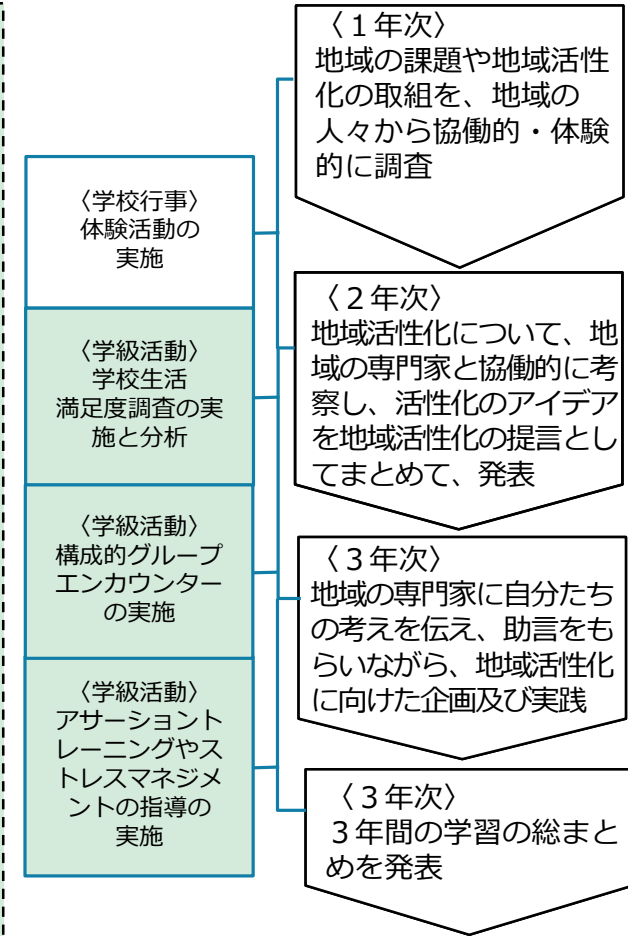
【生徒の考え】

- ・みんなが同じ意識をもって取り組むことの大切さを学んだ。
- ・地域の専門家の方から、実践に向けての効果的な方法や技術を学ぶことができた。



【地域の専門家の方による指導】

3年間の学習過程・学習の流れ



育成を目指す資質・能力

わが島の海洋や海浜に誇りと愛着をもてる資質と、自然を守るために行動できる意欲と能力

取組の概要

【取組の内容】

- ①シーカヤックの技術指導を行える指導員の確保
- ②港を使用するため、地元漁協組合や港管理者への協力要請
- ③安全確保のため、地元漁師の協力で漁船からの体験見守り

【生徒の考え】

- ・海洋ごみ・マイクロプラスチックの問題
「体験を通して、このきれいな海を守っていきたいと思った。」
- ・ビーチクリーン活動（生徒が主体的に行った活動）
「海はとてもきれいだが、海浜には多くのごみが放置されていた。」
- ・三宅観光大使
「島の人でも気が付かない自然の豊かさを知ってほしい。」




【シーカヤック体験】

シーカヤック

シーカヤックとは、海で使うことを考慮し波・風・潮流などに影響されにくいボートのことを言います。

シーカヤックは伊ヶ谷港で行われています！

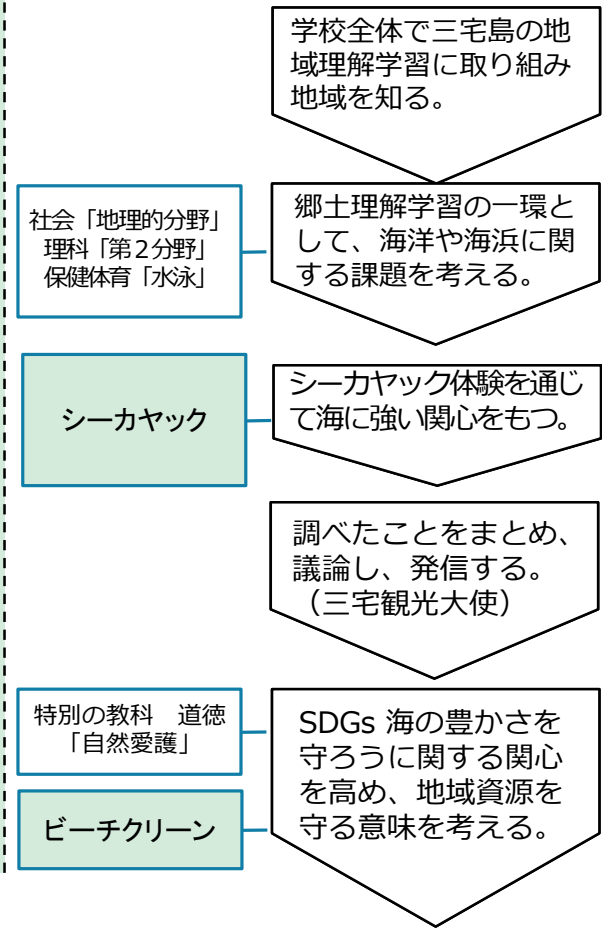


<体験談>
自分たちで体験をしてみて、追い風のときはいいけど、向かい風のときはすごく腕が疲れました。

詳しくは三宅村役場ホームページをご確認ください
<https://www.vill.miyake.tokyo.jp/kakuka/kankousangyou/news/files/6kanu.pdf>

【三宅観光大使の取組】

学習過程・学習の流れ



育成を目指す資質・能力

学級の友達と話し合い、課題解決に向け、主体的に行動する意欲、実行力

取組の概要

【取組の内容】

- ①持続可能な開発目標について外部講師の講演を聞き、学級で話し合い、調べるテーマを1点選ぶ。
- ②理科で学習した「マングローブの生態について」と関連付けながら、各学級で選んだテーマの調べ学習を行う。
- ③社会生活を送る上で望ましい人間関係を築くため、自分の意見を述べたり、友達の意見を聞きながら模造紙にまとめ、発表する。

【生徒の考え】

- ・ 飢餓の原因について知ることができ、苦手な食べ物も残さず食べようと思った。
- ・ 様々な企業が、SDGsの取組をしていることが分かった。
- ・ このまま、海が汚れてしまうと、おいしい魚が食べられなくなるので、ごみを減らしたいと考えた。

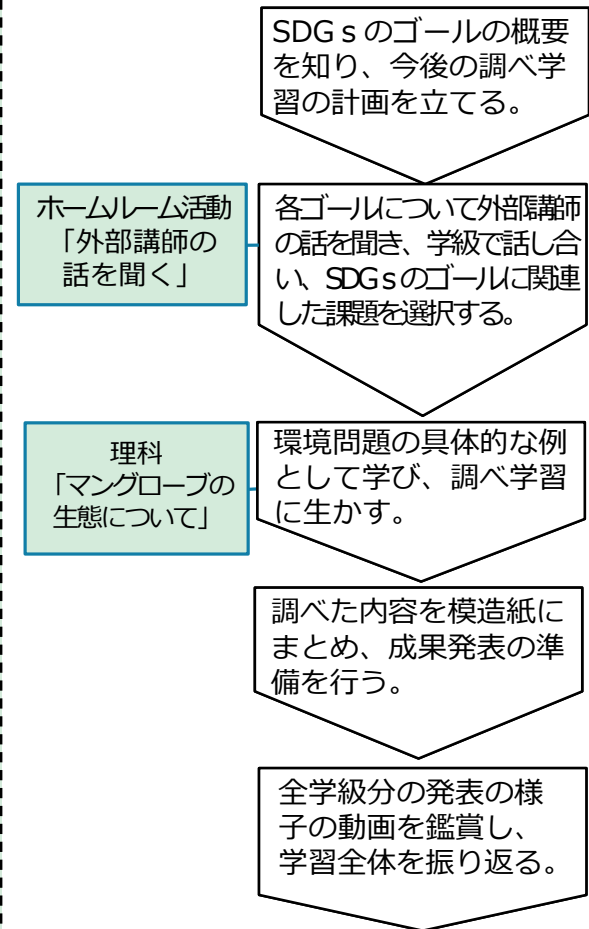


【外部講師の講演を聞く生徒たち】



【完成した掲示物】

学習過程・学習の流れ



育成を目指す資質・能力

里山を守る人との関わりを通して自ら地域貢献しようという態度

取組の概要

【取組の内容】

- ①第1学年 校内外探検において身近な環境について知る。
学校に隣接する「都立桜ヶ丘公園」の里山に行き、活動を知る。
- ②第2学年 里山を守る「丘陵地レンジャー」との出会いを通して活動のレパートリーを広げる。
桜ヶ丘公園の自然や遊びの模倣を通してやりとりの楽しさを知る。
- ③第3学年 「丘陵地レンジャー」に遊びの弟子入りをする。
模倣遊びからより児童の主体的な遊びへと質的に発展させる。
- ④第4学年 「丘陵地レンジャー」を「師匠」とする「里山レンジャー」になり、自然を守り育てる活動に取り組む。
学びの成果を「丘陵地レンジャー」の「師匠」に向けて発表する。
- ⑤第5学年 「里山レンジャーマスター」として里山で「師匠」と一緒に活動する。
宝探しの中で主体的に植物や昆虫等を撮影し、園内地図を作る。
- ⑥第6学年 広く地域に自ら伝える側として花や緑の写真撮影をし、発表する。
発表に対する地域の評価を受け自己肯定感や有用感を持つことで、次の活動への期待をもつ。

【児童の考え】

- ・「(師匠と)一緒に(活動)できて、嬉しかった。」
- ・「また、(里山レンジャーを)やりたい。」



【第3学年 「丘陵地レンジャー」を招待し、一緒に校内自然園で活動】



【第4学年 「丘陵地レンジャー」と虫探し】

6年間の学習過程・学習の流れ

- ①「探検隊になろう 校内外探検」
都立桜ヶ丘公園の自然環境に気付く。
- ②「探検隊になろう」
教えてもらった遊びを模倣し再現する。
- ③「里山レンジャーになろう」
模倣遊びから児童の主体的な遊びへと質的に発展させる。
- ④「里山レンジャーマスターになろう」
「丘陵地レンジャー」の「師匠」に活動の成果を発表する。
- ⑤「宝物を探そう」
地図作りで主体的に係の役割を果たす。
- ⑥「花と緑の写真館」
写真展に出品し、地域の評価を受ける。